



田宿川で行われるたらい乗り競争の実行委員長

お 小 澤 進さん

栄町(62歳)



今泉の田宿川周辺の六町内は、十年以上まえから川の清掃を続けてきました。ことしは一歩進めて川に親しみ、川を大事にする気持ち育てようと、八月九日、田宿川でたらい乗り競争が行われます。その実行委員長が小沢さん。

たらいは直径一呎の大きいものを十二個用意。今泉公民館南の学校橋から竹の棒でこいでいきます。種目は多彩で、平安時代の「曲水の宴」(曲水に杯を流し詩歌を詠する宴)をまねたものも。たらいはその後も夏休みの間、子供たちに貸し出されます。「富士市民は水に恵まれすぎて大事にする気持ちが弱い。これをきつかけに、みんなが川を見直してくれれば…」と熱く語りま

す。仕事は電機会社の技術顧問。町内会長、市バレーボール協会会長なども勤め、とても多忙。気持ちはまだ三十八歳。将来は田宿川を螢が飛ぶ川にしたいね」とバイタリティーいっぱい。

まちか

我がまちを語る



佐野茂雄さん

富士見台 7 (72歳)

まちづくりの意欲的
富士見台は地元はもとより、北海道から九州まで全国から集まった人々が住んでいる新興住宅地です。
団地ができた当初は、隣組といっても名ばかりで、自治活動や行事など全くありませんでした。加

えて、住民の年齢層が若いこともあって、地域のまとまりという点では弱い地区でした。
しかし、今では逆に伝統がなく若いということが、富士見台のまちづくりにプラスの作用をもたらしています。若い住民は、地域のソフトボール・バレーボール大会などで懇親を深め、まちづくりにもその力を発揮しています。まちづくりに対する情熱や行動力、新しい考え方は、おそらく富士市一ではないでしょうか。
今、富士見台の住民は「富士見台を自分のふるさとに」を合言葉に、よりよい伝統を築くべく燃えています。

あの人の人・こんなこと



DVDで楽しむ竹細工
堀久光さん(富士見台六)

富士見台の竹細工の先生といえは堀久光さん。子供のころの経験をもとに勉強し、竹笛、竹ゼミ、竹トロンボ、水鉄砲などをつくります。「おもちゃは買ってくるものと思っっている今の子供たちに作る楽しさも教えたい」と一言。



植物ならなんでもこい
鈴木四郎さん(富士見台二)

若いころから植物が好きで、三十年前に今でいう脱サラ。華道の道を極め、植物染色・薬草・薬酒を独学。植物のことならなんでもこいの鈴木さんです。最近まで市内の多くの中学・高校の華道講師も勤め、植物への愛情は人一倍。



目指すは三味線日本一
嶺脇武紀さん(富士見台六)

男性的ですが、どこか寂しげな音色の津軽三味線。嶺脇さんは二十年前、その調べに心打たれ、以来、日本一を目指して練習を積んでいます。練習場は原田の東名ガード下。嶺脇さんの歌う民謡と三味線が響かない日はありません。



まちづくりの主力
富士見台婦人会

ベッドタウンの富士見台ですから、昼間はほとんど主婦ばかり。そこで俄然、まちづくりの主力となったのが婦人会。富士見台下水処理場の汚水問題から、粉せっけんの使用運動を始めたのがきっかけで、昨年、正式発足しました。日常生活の必要感から生まれた行動派の婦人会です。

